

指標20 VCM（バンコマイシン） 血中濃度測定実施率

代表者：鶴田 真 クオリティマネージャー：林 幸恵
QM委員会委員10名、診療所職員1名

VCM（バンコマイシン）とは

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）による感染症を治療するための抗菌薬です。VCM（バンコマイシン）は点滴で血中に投与します。

血中濃度測定とは

VCM（バンコマイシン）は、投与した後に血中の濃度をみながら投与量を微調整する必要があります。適正な濃度より低ければ治療効果が得られず、適正な血中濃度より高いと腎機能悪化などの副作用が出現する可能性があるためです。

指標の意義

院内感染対策の質を評価するQI指標として、2019年度より調査を開始しました。当院では2019年度より、医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師・事務部門からなる『抗菌薬適正使用支援チーム（AST）』が活動しており、VCM（バンコマイシン）血中濃度測定実施率の調査結果を共有し、指標の改善に向けた活動を行っています。

Plan(計画)

●月ごとにVCM(バンコマイシン)血中濃度測定実施率を測定する。

Do(実行)

●月ごとの血中濃度測定率を『抗菌薬適正使用支援チーム(AST)』で分析し、対策を立て実行する。

Action(改善)

- 【2019年度から】『抗菌薬適正使用支援チーム(AST)』での未測定事例への介入。
- 【2020年度から】バンコマイシン(VCM)の血中濃度測定結果に基づく院内の投与手順を整備。

Check(評価)

- 【2018年度】平均測定実施率72.4%
- 【2019年度】平均測定実施率92.5%
- 【2020年度】平均測定実施率88.1%
- 【2021年度】平均測定実施率98.8%
- 【2022年度】平均測定実施率98%



活動内容

調査

- 1ヶ月毎の調査を継続する

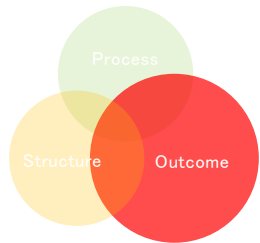
広報

- 院内ニュースや病院ホームページに掲載し、結果を可視化する

効果判定

- 血中濃度測定率100%継続を目指す
- バンコマイシンの適正使用を推進する

VCM血中濃度
測定実施率



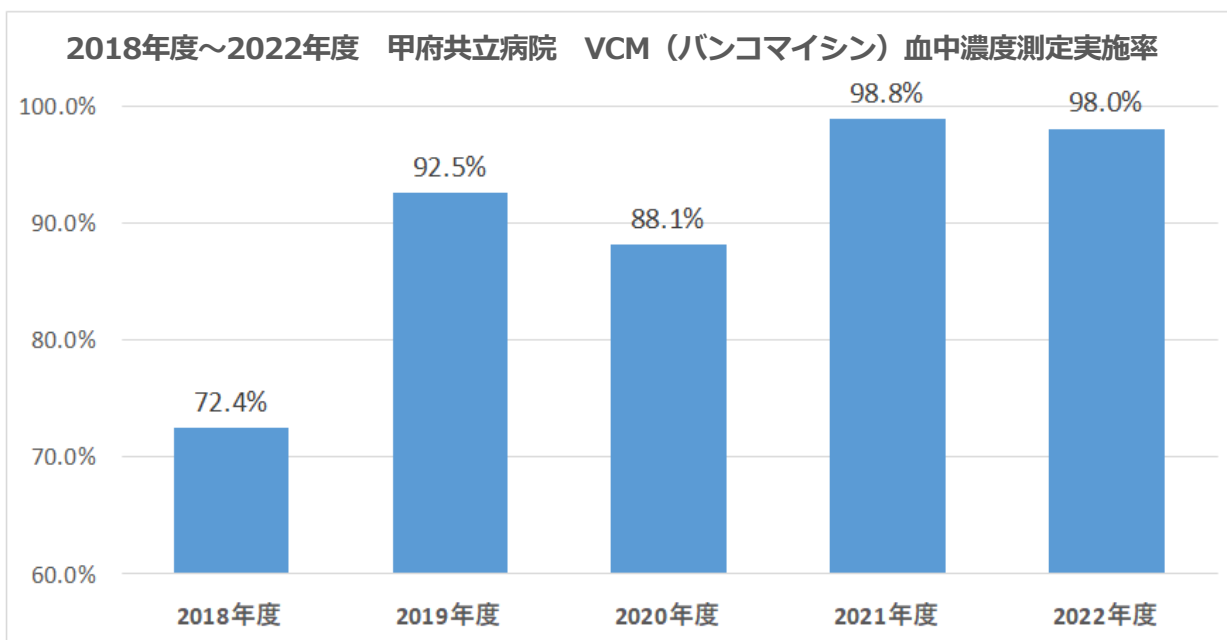
指標20 VCM（バンコマイシン） 血中濃度測定実施率

定義

- 分母：入院患者で4日以上バンコマイシン（VCM）を投与された症例数
- 分子：分母のうち、血中濃度測定が実施された症例数

VCM（バンコマイシン）血中濃度測定実施率

2018年度～2022年度結果



●QM委員会より

VCM（バンコマイシン）血中濃度測定実施率は、ほぼ100%を維持しています。今後も抗菌薬の治療効果を最大限に引き出し、かつ副作用や耐性菌の発生などの有害事象を最小限に留めるために継続した調査を行って行きたいと思えます。

VCM血中濃度
測定実施率